熊倉純子先生(音楽学部・音楽環境創造科)が学生にすすめたい本

『 百年の愚行』 Think the Earth Project発行

「創造と革新の世紀」であった反面、「破壊と愚行の世紀」であった20世紀を振り返り、21世紀の地球を考えるための100枚の報道写真集。戦争の惨禍や貧困、迫害、環境破壊など、人類の繁栄の負の遺産を眼下に突きつける画像が、すべて今日の日本、われわれの日常生活に密接につながる連鎖のひとコマだとひしひし感じられるのは、写真の力だけでなく、本を生み出した編集の力なのだと思う。

大量消費社会では、情報も日々大量に消費され、TVニュースや新聞のショッキングな報道映像も、ほとんどが一瞬脳裏をかすめておしまいである。捨てられていく情報の断片を「書物」として文脈化することで、読者の消費（=地球破壊）行動に一石を投じようとするこの試みは、実は不振にあえぐ出版産業の営利活動とは一線を画した生い立ちをもつ。発行元のThink the Earth ProjectというNPOは、企業や個人の寄付や協力で地球の未来を変えるための活動をおこなう団体で、この本の収益の一部も貧困や難民問題に取り組む他のNGOに寄付されているのだ。

また、書物のオリジナル版は、「世界中の古新聞を台紙に、写真を直接貼り込んだ、世界で1点のみの作品」で、各地で展示公開されている。報道写真を造形的につづる美術作品ともいえるオリジナル版の存在は、このメッセージが出版物の消費構造に埋没してしまう危険から救っている。ここにも情報発信における編集の技がある。行動する知――21世紀の知は、書物という静的な形態のみならず動的な力をもはらむ、そんな未来の予兆がここにある。２１世紀の地球市民の教科書ともいえる一冊。